



京大・時計台前から出発 (25.10.5)

10月5日、私には久々の1人デモに参加した。前日は自民党の総裁選挙の日だった。5人の総理候補者全員が「原発推進」で一致する事態。東電福島第1原発事故をなかつたことにしたい連中。琉球弧をミサイル基地にして、祝園をはじめ各地の弾

10月5日 久々のヒトリデモ 京大から下鴨へ

薬庫を増強している。原発の再稼働を急ぎ、美浜には新たな原発を作ろうとしている。これらを進める人たちは、「××国のミサイルがあ」と言う人たちが多いと思うのだが、原発や弾薬庫は自爆装置そのもの。でもそれは問題にしない。愛国(亡国)の輩たちは、何とも調子がいいのだ。さてさて、当日の報告だが、小雨のなか10時に京都大学の時計台前の歩道に集合、日曜のため人通りはほとんどなく、たまに京都大学の看板の前で記念写真を撮る家族連れをちらほら見かける。吉田神社の鳥居前を右折して住宅街を通り東大路通りを北上。京都大学の吉田寮の前で写真撮影をし、下鴨神社目指して百

万遍から住宅街を西へ。下鴨神社では当日、「『紬の森ワンダーマーケット』in下鴨」にぎやかに行われており、小浜でチラシ配布などでお世話になっているMさんがお店しているとのことでご挨拶をし、再びデモを行い出町柳で解散となった。

デモの最中、すれ違った女性から「私も原発反対です」と言う声や「ご苦労さま。頑張ってください」とみんなに



静かな下鴨の町中を (25.10.5)

老朽原発 うごかすな! ニュース

第151号

発行・老朽原発うごかすな!
実行委員会[連絡先]
090-1965-7102

10月11日

原発生き残りに必死の関電に対し びわ湖を見ながら、「原発ゼロ」は歴史の必然

朝から木原壯壯さん(元原研)は、「35年後には、高浜、大飯、美浜原発の順で燃料プールは満杯になって、原発を運転できなくなる。だから関電は使用済み燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空をつくることに躍起だ」と講演。

ところが、「関西電力は10日、使用済み核燃料を一時保管する乾式貯蔵施設について、2025年内の乾式貯蔵施設の着工を急いでいる、27年ごろに完成としていた高浜原発の施設を26年着工、28年ごろ完成へと1年後ろ

会釈され声をかけられた。東電福島原発事故から時間がたち、原発問題が身近な問題と感じられなくなりつつある今日、だからこそ「原発から手を引け」「自然エネルギーを進めよう」の声を広げて行かなくてはならないと思う。地震大国である台湾が原発をやめた。日本も大衆運動の盛り

上がりで大きな世論を作らねばと思う。でも突然大きな運動が起こるわけでもない。「小さなことからコツコツと」「継続は力なり」これかなと思う。

(老朽原発うごかすな!)

実行委員会

山口 たかお

さいなら原発びわこ講演会 (25.10.11)



倒しにした。燃料の搬出先の一つである再処理工場(青森県六ヶ所村)の審査状況の遅

**原発つづけるための
乾式貯蔵NO!**

使用済み核燃料の
行き場はない

全国集会@高浜

2025. **11/30** 日

🕒 集会 13:00~14:30
集会後デモ ~16:00解散

📍 高浜町文化会館 (福井県高浜町)

主催: 老朽原発うごかすな! 実行委員会

れを受けた。」(朝日新聞10月11日朝刊) など昼過ぎ帰宅時にはマスコミ報道が一斉になされた。事程左様に、7月22日の参院選投票開票の翌々日には関電社長が「美浜原発敷地での原発リプレースのための地質調査を14年ぶりに再開」を参院選を待ちわびていたように発表。今度は原子力規制委員会を口実に複雑な報告。猫の目のように変わる政治情勢に翻弄されながらも関電は原発生き残りに必死だ。

しかしながら、原発ゼロは歴史の必然だ。生き続けねばならない民衆の不屈の闘いが指し示す。そのことが台湾民衆の闘いの講演で明確に。この日のノーニョークスアジアフォーラムの佐藤大介さんの講演で、台湾での70回の原発運動の映画上映会より、山口県上関町祝島の女性を中心とする上映会参加者の反応の質の方が高かった。台湾原発現地の女性と祝島の闘う女性性が「私たちと同じだ!」と。闘いを1日でも引き伸ばす中で、不幸なことだったが福島原発事故が起こり、機動隊と対峙していた闘いの工事強行が延期され今日に至る。

そんなことを美しい1450万人のいのちの水源…びわ湖が垣間見える会場で、静かな土曜の午前中、満席30人の市民でじっくり学びあえた本日の講演会であつた。

11・30朝、湖国からマイクロバスがこの熱い思いを満載にして高浜原発に出發する。

10月4日

原発は人類の手におえない 持続可能な自然エネルギーに変えよう

(老朽原発うごかすな!)

実行委員会 稲村守

私たち「平和と民主主義をめざす全国交歓会(全交・ZENKO)関電前プロジェクト(関電前PJ)」は、14年前の東京電力福島第1原発事故(原発事故)を発端として、大阪市内にある関西電力の本店の前で毎週金曜日に『原発★星空交流会』をこの9月で757回続いている市民団体です。

その長い闘いの中で「関電包囲行動」と繋がり、更に今回の学習討論会の講義をしていただく木原壮林さん(元日本原子力研究所研究員)らの「老朽原発うごかすな! 実行委員会」さんと繋がりました。

そしてこの秋、これまでも関西の反原発の運動を先導されていく同実行委員会の大きな行動として、11月30日『原発つづけるための乾式貯蔵NO! 全国集会@高浜』があり、これに向け「秋の学習討論会(学習会)」を10月



ZENKOの学習討論会で木原さんが講演 (25. 10. 4)

当日雨模様でしたが約20人が集まりました。木原さんは元日本原子力研究所研究員という事もあり、その資料スライドが100ページを超え、約1時間半の熱弁となりその思いを感じました。その専門性から少し一般人には理解が難しいところはあったと思いますが、「原発は、現在科学技術では制御できない、人類の手におえない! 持続可能な自然エネルギーに変えていこう!」というものでした。最後の「サツマイモ発電」は楽しく未来のエネルギーを考える事ができました。その後の質疑で、乾式貯蔵の使用済み核燃料を35年迄に福井県外への搬出開始が出来なければ、燃料プールに戻すという事に対して、「何時もの関電のその場しのぎの詭弁である」と断罪されました。

また10月13日大阪市扇町公園で『団結まつり』があり、昼の反原発交流会でも木原さんにミニ討論会を予定しています。是非ご参加下さい。

(ZENKO

安井)